

令和2年度 広島市立看護専門学校学校自己評価概要

「4：できている」「3：ややできている」「2：ややできていない」

n=29 回収率100% 配付数29 回収数29 (うち有効回答数29) 赤字：平均値3.4以上(12項目中12項目)

項目	主な内容	令和2年度			学校としての取り組み事項
		最頻値	平均	SD	
教育理念・目的	①学校の教育理念や目標が教員や学生、保護者に周知されているか。また、実際に教員や学生の指針となっているか。 ②目標に対する評価を実施し、その結果を教職員に周知するとともに、次年度の取組につなげているか。	4	3.4	0.6	今年度は保護者説明会が中止となったため、保護者に学校の理念、経営計画等が説明できなかった。しかし、学生や教職員間では、学校自己評価の結果や期末の結果を掲示や回覧し、目標の達成度について共有した。また、新型コロナウイルス感染対策について、必要時保護者にも文書で伝え、方針の共有に努めた。
学校運営	①学校全体の情報共有、総務課と教務課の連携は適切に行われているか。 ②業務マニュアルが適切に整備され、必要に応じて適宜見直し、周知されているか。 ③管理職のリーダーシップのもと、各係長がそれぞれの部署をまとめチーム力を発揮して問題解決に当たっているか。 ④学校評価を組織的に実施し、評価結果を教職員に周知するとともに、外部にも公表しているか。また、その結果に基づき改善を図っているか。 ⑤学生情報を適正に管理するための学生支援システムが円滑に運営されているか。	4	3.3	0.7	①運営会議は毎週1回実施し、学生に関すること、学校運営に関することを協議し、決定している。また、広島市立病院機構と共に五施設代表者会議は、6月と12月に開催し、広島市立病院機構の4病院との連携を図り、次年度の臨地実習に向けて準備している。 ②業務マニュアルは、手順を変更した場合は修正し、整備している。 ③今年度から全学年担任制を取り入れ、担任を中心に学級運営を行った。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大と体制変更が重なったことから、当初は混乱をきたした。しかし、後期になると、担任中心に学級運営を行うことができた。また、発生した問題を皆で共有するために、掲示板や朝礼を利用し、情報の共有、透明化に努めた。 ④学校自己評価は計画通りに実施した。遠隔授業に関するアンケートも2回実施した。その結果、90%以上の学生が遠隔授業にスムーズに参加できていると回答していた。しかし、声が聞こえにくい、動画がうまく配信できないなど、課題が明らかになった。また、集中力についても、遠隔授業の方が持続すると回答した学生は37.2%であり、遠隔授業による学習効果対策が課題である。 ⑤学生支援システムに情報が一元化できるように取り組み、不具合時はただちに改善している。
教育課程	①教育課程は看護学の内容、求める学修の到達及び学生の成長について明確な考えと根拠をもって編成しているか。 ②学習内容は、教育理念・教育目標と一貫性があり、時代の要請に応える内容となっているか。 ③単位認定の基準及び方法は、看護師に必要な学修を認めるものとして十分に根拠があり、また、妥当であるか。 ④未履修科目の原因分析を教員側と学生側で実施し、対応策を講じているか。	3	3.5	0.5	①②2022年のカリキュラム改正に向けて委員会を立ち上げ、準備をしている。今年度は、遠隔授業の導入や、臨地実習が中止になったが、カリキュラムや、目的・目標は変更せず、対応した。学生アンケートでは、91.9%が「遠隔授業に慣れてきた」と答えており、さらに、92.0%の学生は、「受講予定の遠隔授業にはスムーズに参加できている」と回答していることから、多くの学生は遠隔授業に対応できていると考える。 ③学生の単位修得に関して検討が必要な場合は、便覧やシラバスに戻り、対応の共通化に努めた。 ④学生の未履修科目については、学生それぞれの状況が異なるため、教員が学生と面接をしながら、学生との情報共有に努めた。
教育活動	①シラバスと教育課程に整合性があり、学生が授業内容を理解できるようにしているか。 ②スムーズな授業運営を図るため、適切に時間割を調整しているか。 ③学生の状況に応じて授業内容や指導方法を考え、工夫・改善しているか。 ④学生による授業評価を実施し、授業の改善に努めているか	3	3.4	0.5	①～④今年度は新型コロナウイルス感染対策のために、授業の時間や方法を変更することはあったが、カリキュラムの目的・目標・方針は変更することなく対応することができた。 2年後にカリキュラム改正を控え、新たな評価方法を導入すべく「新カリキュラム作成委員会」を設置し、検討している。
実習	①実習目標が達成されるよう実習環境が整っているか。 ②実習指導者と教員の役割を明確にし、互いに協力して実習指導にあたる体制があるか。 ③実習時の患者への倫理的配慮を励行しているか。 ④実習時のインシデント・アクシデントを分析し、学生指導に活かしているか。	4	3.3	0.8	①今年度は、実習を行っている一部の施設のみ臨床指導者会議を実施した。上半期は精神科の新規実習施設開拓に努め、2施設を確保することができた。また、老健施設は1施設確保することができた。 今年度は、急性期病院における実習はすべて学内実習となった。単位認定が受けられるリアリティーのある実習になるよう、実習病院と協力し、事例を作成した。また、「シナリオ」2体や「産科の模型の人形」を新規購入したり、認知症患者を視覚的に疑似体験できるVRをレンタルし、学内臨地実習に活用したりして、より臨地に近い実習ができるよう、取り組んだ。 ②今年度の事実発生率は昨年度より1/2程度の報告であった。報告件数が減少した理由は、学内実習であったり、休業や遠隔授業による学生の登校回数が増えたことも影響していると考えられる。しかし、インシデントが発生したら、学生は「振り返りレポート」を記載し、自己の行動の振り返りを行い、教員とともに改善策を検討している。
学生支援	①学生が学修を継続できる支援体制を多角的に、かつ学生が利用しやすいように整え、実際に学生生活の支援になっているか。 ②学生の心身両面での健康管理体制が整っているか。 ③学生生活、進学、就職に関して学生の相談に十分にしているか。 ④学生主体で自治会活動が実施できるよう計画的かつ適切な指導・支援を行っているか。 ⑤図書室は利用しやすく学生に十分活用されているか。	4	3.5	0.6	①今年度は新型コロナウイルスによる学生への支援対策としての奨学金が複数提案され、その都度対応した。奨学金担当者は学生の選定や対応に困難を要したが、学生を支援することができた。 ②学生生活アンケートの「スクールカウンセラーによる安心感」は、昨年度の77.0%から80.1%に上昇しており、スクールカウンセリング制度に関するアンケートでは、88.7%の学生がカウンセラーが居ると安心感があると述べている。健康診断は、休業になっていたことから予定通りには行えなかったが、時期をずらし、実施することができた。 ③今年度からチューター制も残しつつ担任制を導入した。学生にとっては有効であったが、担任に情報が集約するメリットはあるが、業務量の調整が課題である。 ④自治会活動は、新型コロナウイルスの影響により、オープンスクールやコスモス祭が中止になったり、学生食堂の閉鎖が決まったりと、大きな決断を要する事項が多かった。それに対して教員が親身になって関わり、学生が大きな混乱を招くことはなかった。 ⑤学生アンケートでは「図書室は利用しやすい」が87.0%であり、昨年度より0.3ポイント、「図書室の蔵書は充実している」は、88.8%であり、前年度より6.8ポイントの上昇となった。これは、図書系の係が、毎年30冊程度新規購入している図書を皆がわかるようにレイアウトを変更したりなど、使いやすい図書室を考え、工夫している結果であると考えられる。
教育技術の向上	①教員が計画的に研修に参加できるよう支援しているか。 ②学校の抱えている課題を踏まえた職場内研修を行っているか。 ③研修や学会等に参加した成果を他の教職員に還元する仕組みがあるか。 ④授業を他の教員が参観、講評できる機会があるか。	4	3.4	0.6	教員研修は、遠隔配信の研修を学内で視聴できるようにしたため、教員の学びを支援することができ、延べ19名が研修に参加できた。公開授業は教育委員会の方を招き、例年通り実施した。授業研究も例年通り実施した。また、職場内研修は、夏季と春季の2回開催するようにした。
教職員の育成	看護教員の育成・確保 ①人材育成・人事交流推進に向けて広島市立病院機構と円滑な連携体制を確保しているか。 ②看護教員が働きやすい職場環境を整えているか。	3	3.2	0.7	①新型コロナウイルス感染のため、今年度は看護教員養成講習会が中止になった。育児休業や退職等で不足している教員は、一般公募し、7月に1名、令和3年度には3名を確保した。 ②教員の働きやすい職場づくりについて、今年度は新型コロナウイルス感染対策のために休業や遠隔授業、学内臨地実習と目まぐるしく方針を変更したため、教員や学生には多大な負担をかけた。しかし、皆の努力により、遠隔授業、学内臨地実習を導入、運用することができた。この経験は、次年度以降の学校運営の力になると考える。 また、今年度より担任制を導入した。上半期は混乱をきたした。しかし、下半期は担任制による混乱も落ち着いてきている。今後は、担任教員への業務量の増加が課題である。それらを精査するうえで、今年度は新型コロナウイルスの影響が大きいことから、もう1年担任制を実施し評価したいと考えている。
入学・就業・就職	入学者の確保 ①より多くの応募者を確保することに努めているか。 ②入学者の状況について、入学者選抜方法の妥当性から分析し、検証しているか。	4	3.6	0.6	准看護師が減少する中、第二看護学科の受験生の減少が予測された。そこで、今年度から「数学」を受験科目から除外し、受験生確保に取り組んだ。その結果、第一看護学科は例年通り209名、第二看護学科は、昨年を大きく上回る83名の出願があった。また、今年度は、ガイダンスの多くは中止になったが、開催されるガイダンスには11回参加した。
	国家試験合格率・就職率100% ①国家試験対策に個々の学生に合った指導・援助を行うなど、教職員が一丸となって取り組んでいるか。 ②卒業生の広島市内就職率を高めるよう努めているか。 ③卒業生の到達状況、就職・進学状況を分析し、学校運営に活かしているか。	3	3.2	1.0	①今年度から「国家試験対策委員会」を復活させ、3年間を通じた国家試験対策に取り組んだ。「国家試験対策委員会」を中心に、遠隔による学習支援等工夫し、支援を行った。 ②③今年度は、広島市内の総合病院の看護師募集人数が減少しており、就職活動は厳しかった。しかし、就職を希望する学生は全員就職先を決定することができた。また、進学する学生も3名は、いずれも希望する学校に合格することができた。
地域との連携・社会貢献	学校の情報発信 ①学校の情報について、ホームページをはじめ多様な手段で積極的に広報活動を行っているか。	4	3.5	0.7	①新型コロナウイルス感染予防のために、本校が主催する学校説明会や、オープンスクール、学校祭は中止となった。しかし、「学校便り」を2回発行した。また、RCCテレビ「野々村真の広島！魅力発見」にて、本校を広報、PRした。広島市のSNSを利用して学生募集を広報すると電話での問い合わせが増えた。
	看護教員の社会貢献 ①社会との連携において、地域のニーズを把握し、看護教育活動を通じた地域社会への貢献を組織的に行っているか。	4	3.4	0.7	①看護協会が主催する「まちの保健室」は全て中止となった。しかし、摂食嚥下認定看護師養成講習会や、看護協会の指導者講習会に助言者や講師として教員を派遣した。また、今年度も看護協会支部の役員も継続して担当している。 新型コロナウイルス対策として、健康福祉局に教員を派遣した。本校の災害支援看護師が、災害看護の講習会等にも参加した。また、広島市立病院機構との協同で、感染管理を徹底し、「臨床指導者研修会」を開催した。受講者からは、好評であった。
平均		3.7	3.4	0.7	

**2. 関係者評価**  
**<学校運営目標に関して>**  
 ・教育理念の実現に向け、教育課程の編成及び実施、学生の学修支援体制の整備、教職員の育成、学校の情報発信や教職員の社会貢献等、多方面にわたる視点から学校経営目標を設定しており、組織的な学校運営が行われている。今後も、社会の変化や教育の動向に注視しつつ、本市の看護教育の更なる充実に向け取り組んでいきたい。  
**<活動内容・自己評価結果に関して>**  
 ・コロナウイルス感染拡大により、臨地実習の中止などがあったが、遠隔授業や学内臨地実習など取り入れ、昨年度よりも高い評価になった。  
 ・学生の未履修科目については、学生と面接をしながら情報共有に努められており、実習できない環境を整備されていると感じる。  
**<自己評価に関して>**  
 ・自己評価が昨年度よりも高い項目が多く、コロナウイルス感染拡大下においても、教員がその都度工夫し対応した継続教育活動を実践した努力が反映しているのではないかと感じる。  
 ・それぞれの自己評価の平均が昨年度より上昇しており、評価できる。この一年間で指導されたことが実習できなくても学生本人たちの強みとなっていることもあると感じる。  
**<その他>**  
 ・コロナ禍により見通しがもたれにくく、様々な変更を何度も余儀なくされた一年だったと思いますが、先生方が工夫されながら学生に対応される姿を拝見しながらの一年でした。